



道総研

ホタテガイ関連情報 No.5

発行:2026年6月2日
道総研函館水産試験場
調査研究部
担当:馬場、水上
TEL:0138-83-2893

● 採苗予測(*): 採苗不振の可能性は低い

3月の生殖巣指数GSIと2月の水温は採苗良好年(2023年)と類似しました(図1)。産卵月のクロロフィルa濃度(初期ラーバ餌量)は1.3 μ g/Lと高く(図2)、採苗は良好になる可能性が高いです。なお、産卵月の定義はGSIが5%以上低下した最初の月としました。

● 5月の水温は高く、餌料条件は平年より良好

水温は4月下旬以降、昨年並みになりました(図3)。5月の水温は平年を4 $^{\circ}$ C上回っており、高い状況です(表1)。クロロフィルa濃度は平年を上回りました(図4)。

● 4~5月に産卵した模様。親貝の成長は良好

生殖巣指数GSIは4月から5月に大きく低下し(図5)、昨年や一昨年よりも産卵は遅かったとみられます。貝柱重量は平年を大きく上回りました(図6)。

(*)本判定は、過去の採苗不振年に共通してみられた環境条件等と、今年の状況を比較して行ったものです。そのため、実際のラーバ付着量を予測するものではなく、過去の採苗不振年と同様の状況にあるかどうかを評価した結果です。

図1 3月GSIと2月水温

採苗良好年(2023年)と類似

3月のGSIは0.25と低くない
(採苗良好年2023に類似)

2月の水温は3.8 $^{\circ}$ Cと低くない

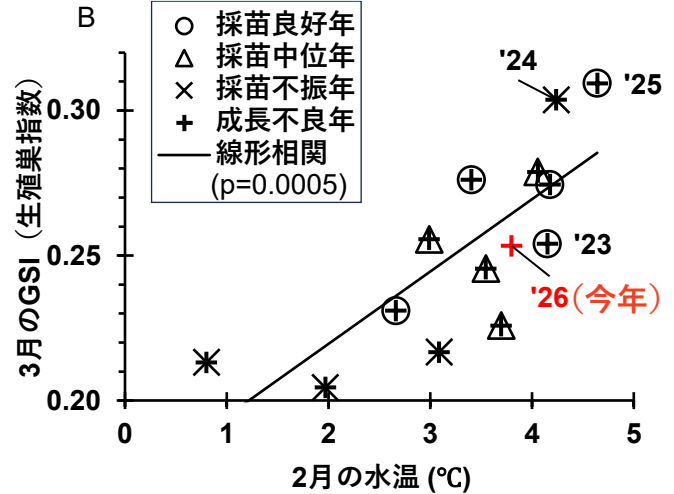
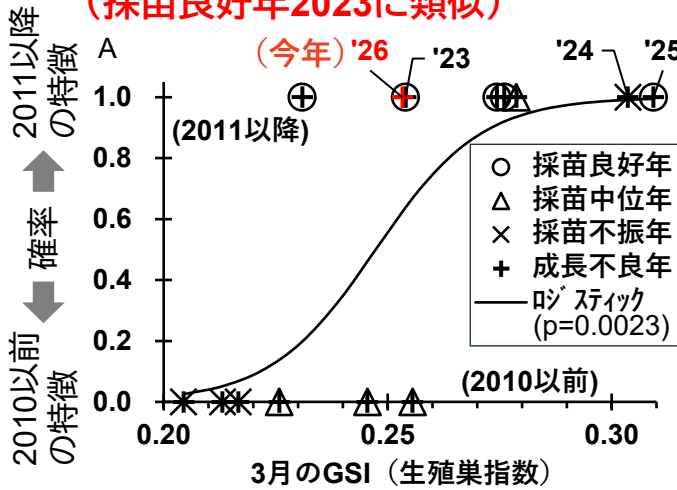
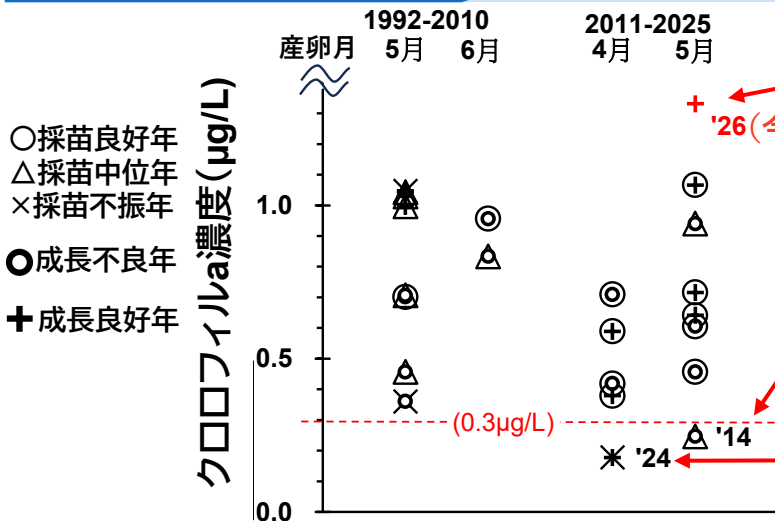


図2 産卵月クロロフィルa

十分に高い (1.3 μ g/L)



2026年の産卵月クロロフィルaは1.3 μ g/Lと高く、初期ラーバの餌量は心配ない

産卵月クロロフィルaが0.3 μ g/L以下では採苗が悪くなる可能性がある

2024年の採苗不振は初期ラーバの餌不足(産卵月の低クロロフィルa)が原因と考えられている

図3 ブイ水温

4月下旬以降、昨年並みの水温

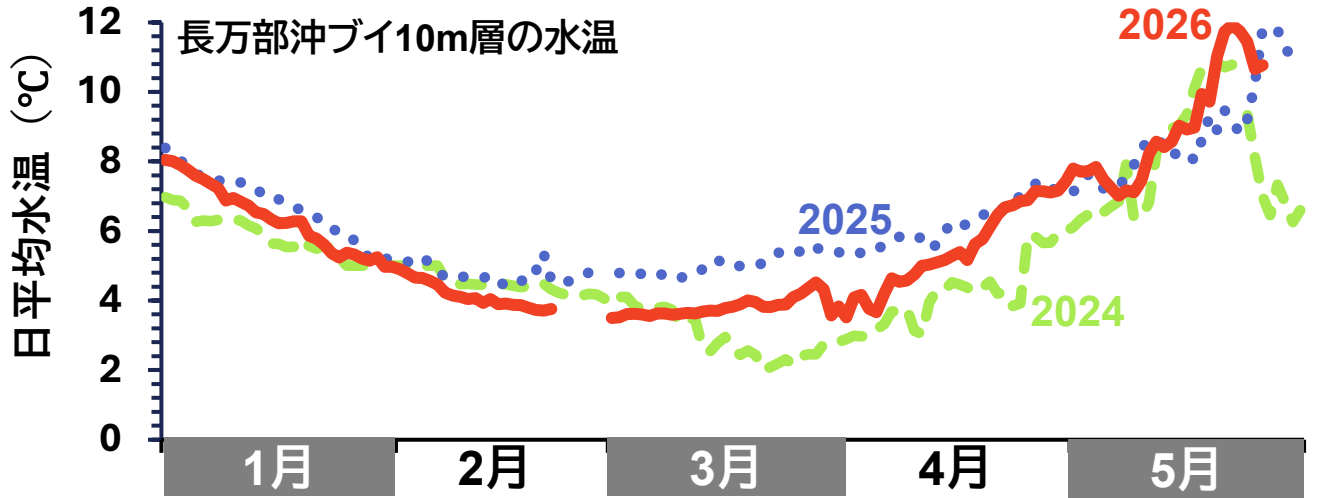


表1 月別水温

平年を4°C上回る高い水温

八雲沖3マイル定点の5、10、15m層平均水温(単位:°C)

月	平年値 1991-2023年	2024年	2025年	2026年
1月	4.9	5.7	6.2	5.9
2月	3.3	4.2	4.6	3.8
3月	3.0	3.8	4.6	3.9
4月	4.5	3.9	6.8	4.9
5月	7.8	5.9	8.8	11.8

図4 クロフィルa濃度

平年と昨年よりも高い値

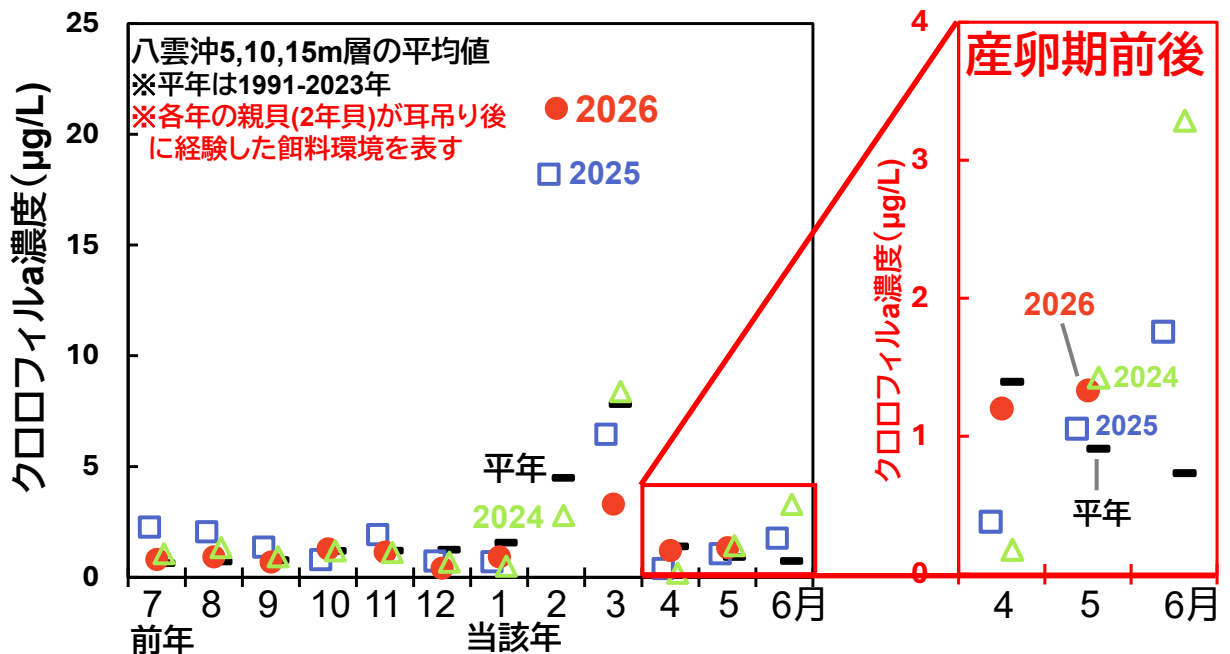


図5 親貝のGSI

4月から5月にかけて産卵した模様

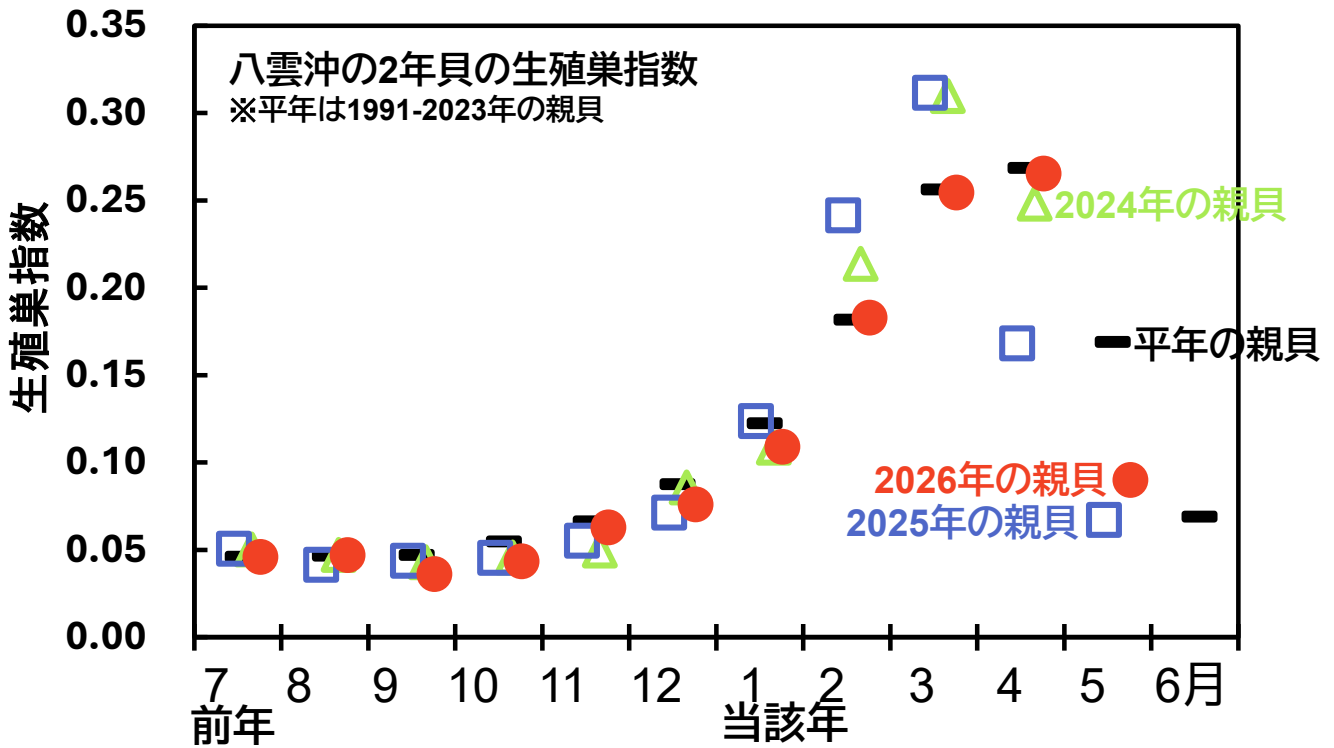
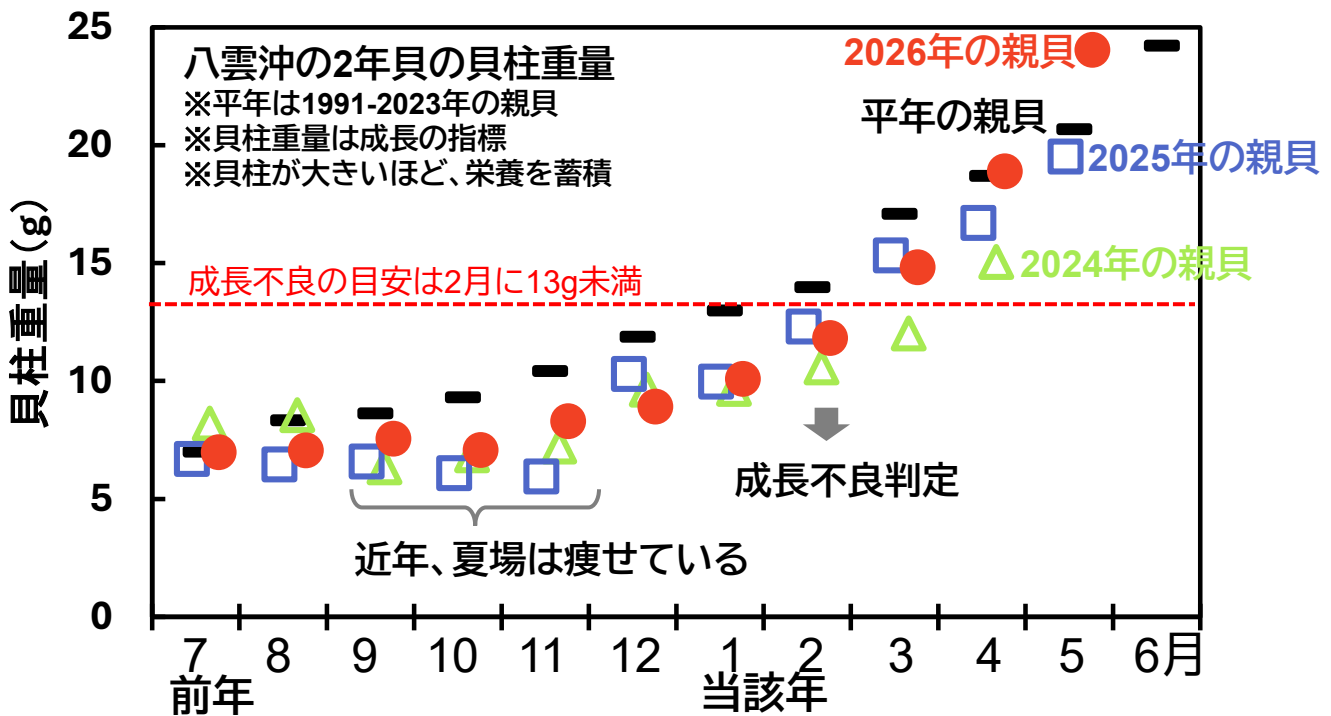


図6 親貝の貝柱重量

平年を上回る重量



今後の予定

6月上旬に全湾ラーバ調査を実施し、採苗器投入後のラーバの出現状況について情報配信します。